

# 自民党、水問題への取り組み加速 「水の研究会」が発足、会長に中川郁子衆院議員

世界的に水問題がクローズアップされるなか、自民党に1期生議員による「水の研究会」(会長・中川郁子衆院議員)が6月5日発足した。同党には特命委員会「水の安全保障研究会」があったが、会長だった中川昭一元財務相が2009年10月に他界し、活動は停止状態となっている。昭一氏の夫人である郁子氏が、水問題に情熱を傾けた亡き夫の遺志を引き継ぎ、同党での水問題への取り組みを加速させる。郁子氏はこの日の研究会発足の席上、「自民党内でもう一度、水のことを議論しなくてはならない。水の安全保障研究会を復活させたいとして、今日という日を迎えました」と語った。(本誌編集部)

水の研究会は、水に関する緊急課題にどう取り組むかを検討するため設立。具体的には、利水、治水、環境、下水道などの分野で健全な水循環を確保する取り組みを行っていくには関係行政機関の連携が不可欠ことから、その調整やアドバイスを行っていく。

この日の研究会には5期目の衆院議員、後藤田正純氏も顔を出し、「中川昭一先生にかわいがってもらい、水の安全保障研究会にも入れてもらった。水問題や水ビジネスは、外務省、文部科学省、厚生労働省、農水省、経済産業省、国土交通省、環境省がバラバラでやっている。こうしたぐちゃぐちゃな状態を解消するため、水を所管する“水省”をつくってもいい」とぶち上げた。

1期目の小林鷹之衆院議員も「この5月にタイで開催されたアジア・太平洋水サミットについてレクチャーを受けたら、4つの省庁の方がいらっちゃった。そのとき感じたのは、常に水をウオッチしている人がいないということで、これは問題だなと思った」と明かした。

水の研究会では水問題などの“指南役”として、竹下亘衆院議員、元



自民党「水の研究会」であいさつする中川郁子会長=6月5日、東京・永田町の同党本部

国交省河川局長の竹村公太郎氏(日本水フォーラム事務局長)、中央大学理工学部の山田正教授、グローバルウォータ・ジャパンの吉村和就代表の4人を顧問として選出。竹村、山田、吉村各氏は中川昭一氏から“水の3賢人”と呼ばれたくらい造詣が深く、水の研究会でも活動を支える。竹下議員は水の安全保障研究会で中川昭一会長(当時)を支える事務局長を務めた。

吉村氏は「カナダには水資源庁があるが、日本は(担当省庁が)バラバラ。中川昭一先生は、水問題で省庁

の縦割りをなくそうとしても無理だからと省庁横断の連絡会をつくった。(休眠状態の)この連絡会が機能するようにしたい」と指摘した。

水問題をめぐっては、超党派の国会議員約40人からなる「水制度改革議員連盟」(代表・石原伸晃環境相)がある。同議連は、水を国民共有の貴重な財産として、内閣府に水循環本部を設置して省庁横断で水の施策を推進するとともに、外資による国内水源地の無秩序な買収に歯止めをかけることができる水循環基本法の制定に向けた活動を行っている。■